



十和田市現代美術館

2008 年 4 月 26 日開館

青森県十和田市が推進するアートによるまちづくりプロジェクト
「Arts Towada（事業名称：野外芸術文化ゾーン整備事業）」の
中核施設『十和田市現代美術館』が2008年4月26日（土）に開館
することになりましたのでお知らせいたします。

[Arts Towadaとその中核施設十和田市現代美術館について]

Arts Towada（アーツ・トワダ）は、十和田市の中心市街地に位置する長さおよそ1.1kmのシンボルロード「官庁街通り」全体を美術館と見立て、アート作品、中核施設である十和田市現代美術館、アートプログラムの3つの要素を柱に5カ年をかけて実施するプロジェクトです。「アート」という新しい要素をまちづくりに取り入れることで、人々が楽しみ、交流することのできる新たな魅力をもつ場を作り出すことをめざしています。

Arts Towadaの中核施設である「十和田市現代美術館」は、まちづくりとアートが一体となった取り組みのもと誕生しました。この美術館は、アートを通した「新しい体験」を提供する場となり、新しい美術館の可能性を開いていきます。



十和田市現代美術館と官庁街通り 2007 年 9 月末現在

十和田市現代美術館

<http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/> <http://www.artstowada.com/>

[十和田市現代美術館のコンセプト]

十和田市現代美術館は、アートを通じた新しい体験を提供する開かれた施設として、国内外で活躍する 21 人のアーティストによるコミッションワークの展示のほか、芸術文化活動の支援や交流を促進するための施設です。常設展示室、企画展示室、休憩スペース、市民活動スペース、屋外イベントスペースなどの多様な機能を内包しています。

美術館の特徴は、個々の展示室を、「アートのための家」として独立させ、敷地内に建物を分散して配置し、それらをガラスの廊下でつなげていることです。各展示室を独立配置させることで、それぞれのアート作品にあわせて建築空間をつくることができ、両者がより密接な関係を結ぶことができます。この分散型の構成は、広場と建物が交互に並ぶ官庁街通りの特徴から着想を得ており、アート作品と都市が有機的に混ざり合います。そして、建物に大小のボリュームをつくることで、大小の建物が並ぶ通りの景観と連続性を持たせています。さらにこの分散配置は、屋外展示スペースやイベントスペースを生み出し、来訪者は屋内空間と屋外空間を同時に体験することができます。また、アート作品が展示されるスペースはいろいろな方向に向かって大きなガラスの開口を持ち、アート作品が街に対して展示されているかのような開放的な構成となります。

[アート作品]

Arts Towada では、十和田市現代美術館や官庁街通り沿いを対象に、「都市、自然そしてアートの共生」と「アートを通じた経験」をコンセプトに掲げ、多様な表現をもつアート作品を 5 ヶ年かけて段階的に設置していきます。

十和田市現代美術館には、国内外で活躍する 21 人のアーティストが、都市や自然、そこに生きる人々との対話の中から生み出した 22 のアート作品が展示されます。またアート作品はこの美術館のために制作されるため、建築の設計段階からアート作品と空間が深く結びついています。アート作品は、展示室だけでなく、中庭や屋上、階段室など、屋内外のあらゆる空間に展開し、来訪者に新たなアート体験をもたらします。

2008 年 1 月～3 月にかけて、作品制作設置作業のために、海外からの参加アーティストが来日する予定です。

○アート作品概要

設計	ナンジョウアンドアソシエイツ
参加アーティスト	21 人
作品点数	22 点



十和田市現代美術館

[アーティスト紹介]



no.	アーティスト名		タイトル（現時点）		生年	出生地
1	チェ・ジョンファ	Jeonghwa Choi	フラワー・ホース	FLOWER HORSE	1961	韓国
2	ジム・ランビー	Jim Lambie	ゾボップ	Zobop	1964	イギリス
3	ロン・ミュエク	Ron Mueck	未定	Undecided	1958	オーストラリア
4	マリール・ノイデッカー	Mariele Neudecker	闇というもの。	This Thing Called Darkness.	1965	イギリス
5	フェデリコ・エレロ	Federico Herrero	ルーフトップ・ペインティング	Rooftop Painting	1978	コスタリカ
6	フェデリコ・エレロ	Federico Herrero	ウォール・ペインティング	Wall Painting	1978	コスタリカ
7	山本 修路	Shuji Yamamoto	松其ノ三十二	Pine No.32	1979	日本
8	ボッセ・セートレ	Børre Sæthre	未定	Undecided	1967	ノルウェー
9	キム・チャンギョム	Changkyum Kim	メモリー・イン・ザ・ミラー	memory in the mirror	1961	韓国
10	ジェニファー・スタインカンブ	Jennifer Steinkamp	ラプンツェル	Rapunzel	1958	アメリカ
11	ハンス・オブ・デ・ビーク	Hans Op de Beeck	ロケーション (5)	Location (5)	1969	ベルギー
12	トマス・サラセーノ	Tomas Saraceno	オン・クラウドズ (エア・ポート・シティ)	on clouds (Air-Port-City)	1973	アルゼンチン
13	オノ・ヨーコ	Yoko Ono	ウィッシュ・ツリー	Wish Tree	1933	日本
14	森北 伸	Shin Morikita	フライングマン・アンド・ハンター	Flying man and Hunter	1969	日本
15	アナ・ラウラ・アラエズ	Ana Laura Aláez	光の橋	Bridge of Light	1964	スペイン
16	椿 昇	Noboru Tsubaki	アッタ	aTTA	1953	日本
17	栗林 隆	Takashi Kuribayashi	ザンプランド	Sumpf Land	1968	日本
18	スウ・ドーホー	Do Ho Suh	コーズ・アンド・エフェクト	Cause & Effect	1962	韓国
19	ポール・モリソン	Paul Morrison	オクリア	Ochrea	1966	イギリス
20	マイケル・リン	Michael Lin	無題	Untitled	1964	日本
21	山極 満博	Mitsuhiro Yamagiwa	未定	Undecided	1969	日本
22	高橋 匡太	Kyota Takahashi	未定	Undecided	1970	日本

1. チェ・ジョンファ Jeonghwa Choi / フラワー・ホース FLOWER HORSE

1961 年韓国生まれ、同所在住。

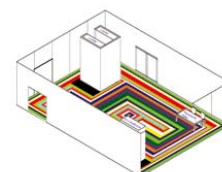
官庁街通りは、戦前、旧陸軍馬補充部が設置されていたことから、「騎街」という愛称で市民の方から親しまれています。通りとつながる屋外イベントスペースには、チェ・ジョンファの高さ 5.5m の花の馬のモニュメントを展示されます。この作品は十和田市の馬との関わり、通りを折々に美しく彩る花々、そして十和田市の未来の繁栄を象徴しています。チェは、学生時代より作品を発表し始め、アーティストとしてだけでなく、インテリア・デザイナーなどとしても活躍しています。2001 年横浜トリエンナーレ 2001 など国際展の参加多数。



2. ジム・ランビー Jim Lambie / ソポップ Zobop

1964 年イギリス生まれ、同所在住。

来訪者はまずガラスの廊下に設けられた入り口を通り、チケットカウンターなど置かれたエントランスホールを通過することになります。この空間には、ジム・ランビーが部屋をなぞるように、色とりどりのビニールテープで床一面を覆うインスタレーションを展開します。ランビーは 2003 年のヴェネツィア・ビエンナーレに参加、05 年にはその年最もイギリス美術に貢献したアーティストに贈られるターナー賞の最終候補にノミネートされるなど近年注目を浴びるアーティストです。作品は日常生活の中に溢れる素材やイメージをモチーフにしながら、空間を変容させるような繊細かつ大胆な作品で知られています。2007 年東京オペラシティ アートギャラリー「メルティング・ポイント」展等に出品。



3. ロン・ミュエク Ron Mueck

1958 年オーストラリア生まれ、イギリス在住。

十和田市現代美術館で最初に訪れる展示室には、ロン・ミュエクによる巨大な彫刻作品が展示される予定です。高さおよそ 4m の女性像は、見る者を圧倒する迫力を持っています。2000 年のヴェネツィア・ビエンナーレに出品された巨大な少年像「Boy」で世界中の注目を集めたミュエクの作品は、肌、髪、透き通る血管、髪の毛にいたるまで人間の身体の詳細な部分まで克明に再現しながら、スケールにおいて大胆な変化を加えます。2002 年東京国立近代美術館「現代美術への視点 連続と侵犯」展、2006 年東京都現代美術館「カルティエ現代美術財団コレクション」展等に参加。



4. マリール・ノイデッカー Mariele Neudecker

/ 闇というもの。 This Thing Called Darkness.

1965 年ドイツ生まれ、イギリス在住。

マリール・ノイデッカーは、自然や風景をモチーフとし、ドイツロマン派主義を彷彿とさせる美しく壮大なインスタレーションで知られています。ここでは、林立する木々の間から淡い光が差し込む幻想的な風景をインスタレーション作品としてつくります。作品はおおよそ奥行き 10m、幅 6m、高さ 5m、森に迷い込んだのかと錯覚するほどの大きさとなり、自然を目の当たりにした際に抱く感情や印象を想起させる作品となっています。2001 年横浜トリエンナーレ 2001 では、巨大な山脈のジオラマを乳白色の液体に満たされた水槽に浮かべた作品「想い出せない今」を出品。



5. 6. フェデリコ・エレロ Federico Herrero

/ ルーフトップ・ペインティング Rooftop Painting

/ ウォール・ペインティング Wall Painting

1978 年コスタリカ生まれ、同所在住。

フェデリコ・エレロは 2001 年ヴェネツィア・ビエンナーレで特別新人賞を受賞以降、日本でも 2005 年愛・地球博アート・プログラムへの参加、ワタリウム美術館「Live Surfaces」展を開催するなど、世界を舞台に活躍するアーティストです。ここでは、3 層吹き抜けの階段室と続く屋上をアートの世界に変えていきます。エレロは、鑑賞者そして場所の関係を考慮しながら、プロジェクト型の絵画制作に取り組んできました。エレロがつくりだす色鮮やかな絵画は、キャンパスのフレームにとどまらず、壁、床、天井と空間全体へと飛び出していきます。



7. 山本 修路 Shuji Yamamoto / 松其ノ三十二 Pine No.32

1979年東京都生まれ、神奈川県在住。

十和田市現代美術館は、各展示室が独立したパビリオンのように敷地の中に点在し、それらをガラスの通路でつなぐことで、屋外展示スペースが生まれます。山本修路は、展示室に囲まれた中庭に、官庁街通りと深い縁のある「松」をテーマにした作品を制作します。山本の作品は、大学在学中から携わってきた庭師の仕事が大きな影響を与え、松や岩をモチーフに作品を制作しています。山本が生み出す松は、どれもみな不思議な形をしています。これは庭師の仕事の中で学んだ、自然物を変化させ、新たな造形を生み出すという日本の伝統的な造園様式に基づいています。



8. ボッレ・セートレ Børre Sæthre

1967年ノルウェー生まれ、ニューヨーク、ベルリン、オスローを拠点に活動。

マリール・ノイデッカーの部屋から空中回廊を抜けると、近未来的環境を思わせるようなインスタレーション作品で知られるボッレ・セートレの作品に出会います。観客が入口に近づくセンサーが反応し、不思議な形をした自動ドアが開きます。すると青と白で構成された空間が眼前に現れ、正面にはベガスが囁くような姿勢で佇んでいます。中に入ると背後の扉は閉まり、観客は作品の世界に包まれます。映画「スターウォーズ」から着想を得たというその特異な空間構成は、観客を日常とは異なる空想世界へと誘います。



9. キム・チャンギョム Changkyum Kim

/ メモリー・イン・ザ・ミラー memory in the mirror

1961年韓国生まれ、同所在住。

この美術館では、映像を使ったインスタレーションも展開されます。キム・チャンギョムの作品は、壁に取り付けられた鏡と水槽が置かれた薄暗い室内に、ありふれた日常の風景を次々に映し出します。しかし、実際に存在するように見える水槽や鏡そして鏡の中の風景や人物たちは、時間の経過とともに闇の中に消えていくため、光の幻影が作り出したものに過ぎないということに気づかされます。キムの作品は、実像と虚像が錯綜し、見る者に存在の不確かさや曖昧さを感じさせます。2003年国際交流基金にて開催された「アウト・ザ・ウィンドウ」展に参加。



10. ジェニファー・スタインカンブ Jennifer Steinkamp / ラプンツェル Rapunzel

1958年アメリカ生まれ、同所在住。

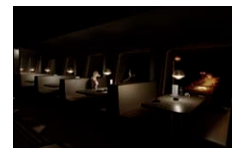
ジェニファー・スタインカンブは、グリム童話の「ラプンツェル（髪長姫）」からインスパイアされたビデオ・アニメーションを制作します。展示室には、童話に登場する植物のように、風にそよいで揺れる花が映し出されます。その動きはとても自然に見えますが、身体的なスペースとつくられた風景の間には、ある種の緊張感が生まれ、観客に魔女の庭を思い起こさせます。2004年光州ビエンナーレ等に参加。空間や知覚についてのアイデアを深く探るため、新しいメディアを使った作品を発表しています。



11. ハンス・オブ・デ・ピーク Hans Op de Beeck / ロケーション (5) Location (5)

1969年ベルギー生まれ、同所在住。

敷地の北西角に設けられた大きな展示室には、ハンス・オブ・デ・ピークによる高速道路とそれに付帯するダイナーカフェを表現した壮大なインスタレーションが展開されます。観客がカフェのテーブルに座ると、目の前の窓の外に、人気のない高速道路の夜景が広がります。それは一見現実の世界かと錯覚する程リアルな光景ですが、遠近法を巧みに利用したジオラマです。カフェの内部は、実物のように再現されていますが、すべてが黒く塗りつぶされており、生命の兆しを感じることができません。それにもかかわらず、不思議と見る者にさまざまなストーリーを喚起させます。オブ・デ・ピークは、若手ながらインスタレーション、ドローイング、映像作品と多様な手法で作品を制作し、近年注目を集めています。



12. トマス・サラセーノ Tomas Saraceno

/ オン・クラウド (エア・ポート・シティ) on clouds (Air-Port-City)

1973 年アルゼンチン生まれ、ドイツ在住。

大学で建築を専攻したトマス・サラセーノは、理論家であり建築家でもあるヨナ・フリードマンとともにプロジェクトに取り組むなど、空間の構成や見え方をダイナミックに変化させることに重点をおいた制作活動を行っています。ここでは、バルーンを使った作品を展示します。透明なビニールでできたバルーンは、壁、床、天井から突き出たワイヤーで展示室内に固定され、空中を漂うように宙に浮いた状態で展示されます。観客は、はしごを使ってバルーンの中に入り、まるで雲の上にいるかのような不思議な感覚を味わうことができます。



13. オノ・ヨーコ Yoko Ono / ウィッシュ・ツリー Wish Tree

1933 年東京都生まれ、アメリカ在住。

戦後日本のアート界において最も重要なアーティストのひとりであるオノ・ヨーコの活動の幅は、従来の価値観にとらわれることなく、アート、音楽、パフォーマンス、映像と多岐にわたり、ジョン・レノンをはじめ、多くの人々に影響を与えてきました。2003 年から全国を巡回した「YES YOKO ONO」展の成功は記憶に新しいでしょう。この美術館で、オノは「ウィッシュ・ツリー」を展示します。観客が自分の願いごとを白い短冊に記し、それを木に吊るしていくことで成立する観客参加型の作品です。願いごとが吊るされる木には、リンゴの木が使われる予定です。オノにとって、リンゴは初期から作品に用いる重要なモチーフでもあります。青森という地域性も考慮して選ばれました。願いが書かれた短冊は、オノのもとに届けられ、アイスランドのレイキャビクにつくられた世界平和を祈念するモニュメント「イマジン・ピース・タワー」におさめられる予定です。

*参考作品画像

Yoko Ono Yoko Ono installing "Wish Tree", EnTrance, June 23 - July 25, 1997, Lonja del Pescado, Alicante, Spain

Photo Credit: Miguel Angel Valero, Courtesy of Lenono Photo Archive



14. 森北 伸 Shin Morikita / フライイングマン・アンド・ハンター Flying man and Hunter

1969 年愛知県生まれ、岐阜県在住。

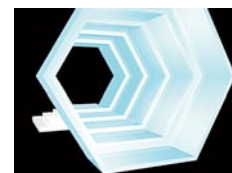
展示室が斜めに配置されることで生まれた三角形のスリットのような空に開かれた屋外空間には、森北伸が二体の人物から構成された彫刻作品をつくりまします。一体は、建物の間で手足を広げた姿で少し滑稽に空を飛ぶ人間。もう一体は、それを橋の上からユーモラスな仕草で眺めています。周囲の環境とひとつになった作品は、ユーモアを感じさせながら、ストーリー性のある作品となっています。2005 年豊田市美術館で開催された「ベリー ベリー ヒューマン」展等に参加。



15. アナ・ラウラ・アラエズ Ana Laura Aláez / 光の橋 Bridge of Light

1964 年スペイン生まれ、同所在住。

彫刻、音楽、写真、映像などあらゆる要素を作品に取り込み、完成度の高い精緻な空間をつくりだすことで知られるアナ・ラウラ・アラエズは、透明のガラスとネオンで構成された光の橋を制作します。観客は光と音で満たされたガラスの橋の内部を通り抜けることができ、五感で作品を体験することができます。2001 年ヴェネツィア・ビエンナーレに参加。



16. 椿 昇 Noboru Tsubaki / アッタ aTTA

1953 年京都府生まれ、同所在住。

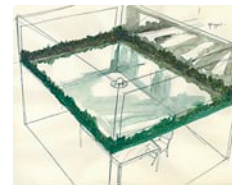
通りに面した前庭には、椿昇が突然変異的に巨大化したハキリアリの彫刻作品を展示します。ハキリアリは、その風貌からは想像できませんが、森のはっぱを切り出し、菌床を作ってキノコを栽培、それを食する農耕アリです。椿は、このハキリアリを巨大化させることで、現代社会に警鐘を鳴らします。2001 年横浜トリエンナーレ 2001 で、全長 55 メートルの巨大なアッタをホテルの壁面に出現させるなど、社会に存在するさまざまな問題を提起しながら、常に人間の感性や知性を刺激する作品を発表しています。2003 年水戸芸術館個展「国連少年」展開催。



17. 栗林 隆 Takashi Kuribayashi / ザンプランド Sumpf Land

1968 年長崎県生まれ、神奈川県在住。

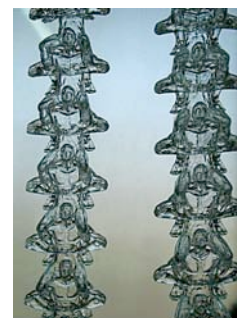
最も小さな展示室に独自の世界をつくるのは、栗林隆です。栗林は、壁裏、天井裏などさまざまな場所に、「境界面」を挿入し、世界の多重性をあらわにします。また栗林の作品は、水や生きた植物など、自然のものを使うことが多く、美術館は言うまでもなく恒久展示の作品には、通常使用しない要素を多く含んでいます。栗林は「今まで美術館の中にこれはなかった、と思わせるような意外な空間をつくることができれば」と語ります。2006 年シンガポール・ビエンナーレ 2006、豊田市美術館「GARDENS」展に出品。



18. スウ・ドーホー Do Ho Suh / コーズ・アンド・エフェクト Cause & Effect

1962 年韓国生まれ、アメリカ在住。

高さ 9 メートルの展示室には、スウ・ドーホーによる巨大な作品が展示されます。作品は、天井から放射状に吊り下げられた透明樹脂製の数万体の人型彫刻がつらなる壮大なインスタレーションです。照明の光を浴びてまるでシャンデリアのように輝く作品は、生命の華やかさを感じさせる一方、常に生と死は表裏一体の関係であり、連鎖と繰り返されていくことを示唆しています。2001 年 ヴェネツィア・ビエンナーレに参加。日本では、2005 年エルメス銀座で個展、森美術館「秘すべし花」展に出品。2006 年水戸芸術館「人間の未来へ - ダークサイドからの逃走」展に出品。



19. ポール・モリソン Paul Morrison / オクリア Ochrea

1966 年イギリス生まれ、同所在住。

高さ 10m、幅 20m のひときわ目立つ休憩スペースの白い外壁面にはイギリスを代表するアーティストのポール・モリソンが、神話に登場するリンゴの木をモチーフとした巨大な風景画を白と黒のモノクロームで描きます。草木や花、森、太陽といった、自然の造形物を単純化したフォルムに置き換え、独自の視点で再構成し、新たな風景へと転化させる作品は、周囲の景色をもダイナミックに変容させます。2001 年小山登美夫ギャラリー、TARO NASU ギャラリーで個展を開催、2004 年東京オペラシティアートギャラリー「アートがあれば WHY NOT LIVE FOR ART」展に出品。



20. マイケル・リン Michael Lin / 無題 Untitled

1964 年東京生まれ、パリおよび台湾、上海に在住

高さ 9 メートルの吹き抜け空間を持つ休憩スペースで展開されるのは、マイケル・リンによる絵画作品です。リンは、現在アジアとヨーロッパを拠点に世界各地で活躍していますが、おもに台湾の日用品に使用される伝統的な花のパターンで壁や床を覆う作品で知られています。ここでは、十和田市の伝統工芸である南部障子から着想を得た、日本の織物のさまざまな花模様で構成された絵画作品を床一面に描く予定です。「訪れた人々が自分の家でくつろぐように親密に感じられる空間をつくりたい」とリンは語ります。2002 年パレ・ド・トーキョー、2004 年 P.S.1 をはじめ、世界中で作品を発表。



21. 山極 満博 Mitsuhiro Yamagiwa

1969 年長野県生まれ、東京都在住。

平面、立体など様々なメディアを、空間に点在させるかのようなインスタレーションを制作する山極満博は、美術館の内部を「都市」に見立て、各展示室を結ぶ通路を、道路や路地裏、辻のように考えることで生まれるフリーゾーンやデッドスペースを展示空間へと変えていきます。「移動」と「スケール」をテーマに、断片化されたイメージを空間に置いていく。そして、美術館の中の「都市」を歩くことで、断片化されたイメージがそれぞれつなぎ合わされていく。山極作品は、アートと空間の新たな関係を提示します。2005 年静岡県立美術館「あなたの居場所」展等に出品。



22. 高橋 匡太 Kyota Takahashi

1970 年京都府生まれ、同所在住。

高橋匡太は光や映像を用い、大空間をドラマチックに変容させる作品を多数制作しています。また音楽やダンスなどさまざまなメディアとのコラボレーションも積極的に行い、日本のみならず海外でも精力的に活動をしています。この美術館は多くの外構照明は設けず、代わりに光を使ったアート作品が夜の美術館を照らし出します。高橋は、この美術館のための作品を考える際、それぞれの展示室のボリュームを構成する「面」に目を奪われたと語ります。「全く威圧感も重量感も感じさせない存在として軽い平面が気持ちよい。ですので、今回の作品では、あえてボリュームは見せません。光の平面が時間とともに切り替わってたちあらわれるというプランになりました。」高橋の作品は、幻想的な夜の景色を生み出すと同時に、昼間とは異なる建築の新たな側面を浮かび上がらせます。

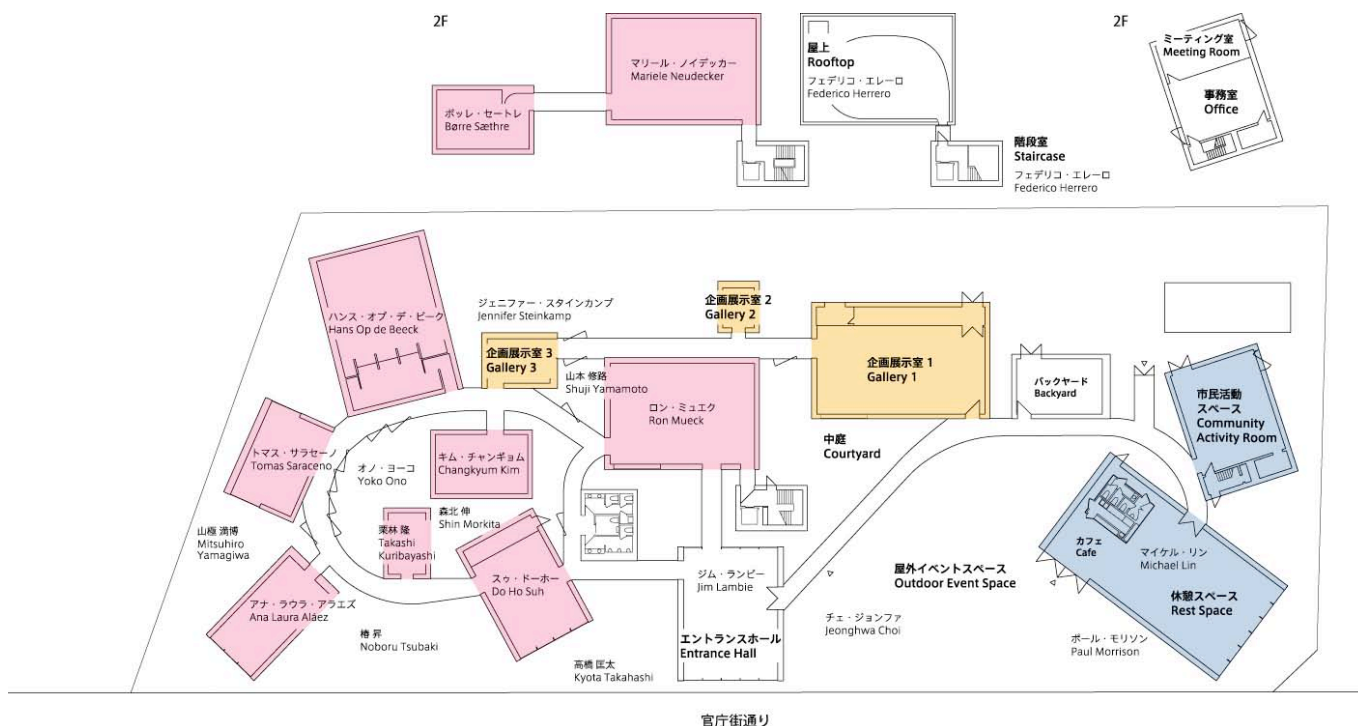


***詳しいアーティスト資料（作品画像、略歴等）がご入用の場合は下記までお問い合わせください。**

ナンジョウアンドアソシエイツ 担当：新居（にい） tel 03-3780-0491 fax: 03-3780-0753 email: nii@nanjo.com

*すべてのアート作品画像の著作権はそれぞれのアーティストに属します。

[施設案内]



所在地 青森県十和田市西二番町 10-9

設計 有限会社西沢立衛建築設計事務所

監理 株式会社石川設計

監理協力 有限会社西沢立衛建築設計事務所

施工 建築工事 上北・経商事・平和実業特定建設工事共同企業体

電気設備工事 株式会社泉電気工事店

機械設備工事 桜田設備工業株式会社

面積 敷地面積 4,358.46 m²

建築面積 1,635.73 m²

延床面積 2,078.38 m²

- 常設展示室 (9 室 / 合計 669.69 m²)
- 企画展示室 1 (W.15,523.5 x D.8,033 x CH.5,250mm / 124.7 m²)
- 企画展示室 2 (W.2,910 x D.3,688.5 x CH.2,850mm / 10.73 m²)
- 企画展示室 3 (W.5,800 x D.4,081 x CH.4,400mm / 23.66 m²)
- 市民活動スペース (77 m²)
- 休憩スペース (196.2 m²)

階数 地上 1 階 (一部 2 階)

高さ 4~17m

構造 鉄骨造

建設工事費 約7億5800万円



*現場写真および模型画像の資料提供: 西沢立衛建築設計事務所

十和田市現代美術館

<http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/> <http://www.artstowada.com/>

[設計者]

西沢 立衛 Ryue Nishizawa

○設計者コメント

官庁街通りに面した敷地に建つ美術館です。「官庁街通り全体を美術館と見立てる」という全体構想の一環に位置づけられたこの美術館は、建物内の活動が通りや街に連続してゆくような、開放的な建物である必要があります。そこで私たちは、展示室群を各々独立配置することを提案しました。各展示室は、独立したパビリオンのように敷地の中に点在します。屋内展示室と屋外アート空間が交互に混ざり合う空間構成です。全体としてアート作品の集落のような全体像です。人々は、集落の中を歩くような感じで各展示室を訪れてゆきます。屋内と屋外が混ざり合うこの独立分散配置は、建物全域に開放性と透明性をもたらします。人々は建物の中にいながらにして、屋外空間や通り、街を感じることができ、また通りからも施設内のアート活動を感じることができます。アートと建築が融合しあい、街に連続してゆく開放的で透明な建物です。

○略歴

1966 年東京都生まれ。1990 年横浜国立大学大学院修士課程修了。同年妹島和世建築設計事務所入所。1995 年妹島和世と SANAA 設立。1997 年西沢立衛建築設計事務所設立。横浜国立大学大学院（Y-GSA）准教授、プリンストン大学大学院客員教授、ハーバード大学大学院客員教授。

[ロゴデザイナー]

東泉 一郎 Ichiro Higashiizumi

○デザイン



十和田市現代美術館
Towada Art Center

○略歴

東京都生まれ。理工学を学んだのち、現場労働などを経てグラフィックデザイナーに。以後、映像、プロダクト・デザイン、WEB プロジェクト、空間デザインなども手掛けている。"Sensorium"のディレクターの一員として、海外数カ所でインターネットを応用した実験的インスタレーションを行うほか、日本科学未来館のための展示コンセプトデザイン、2002 FIFA World Cup のための演出コンセプトワークなど、「初めてつくるものをつくる」を合言葉に、ストリートや音楽に根ざしたグラフィックから、トータルなコンセプトデザインまでを往き来しつつ、仕事をしている。

[Arts Towada 委員会、プロジェクトアドバイザー紹介]

Arts Towadaでは、さまざまな方面で活躍する専門家を迎え、計画やアート作品、建築等について意見をききながら推進しています。

(敬称略、五十音順、肩書は依頼当時のもの)

○専門家委員会 (2004年度)

＊基本計画素案についての検討

梶原 文生	株式会社都市デザインシステム代表取締役社長
北原 啓司	弘前大学教授
小池 一子	武蔵野美術大学教授
小林 央子	キャスター (十和田市出身)
建畠 哲	多摩美術大学教授
帆足 亜紀	ARCUSプロジェクトディレクター
南條 史生	森美術館副館長 ＊委員長
和田 光弘	写真家、日本大学芸術学部写真学科講師 (十和田市出身)

○プロジェクトアドバイザー (2004年度)

＊基本計画素案についての意見聴取

明山 應義	画家 (十和田市在住)
東谷 隆司	キュレーター
五十嵐 太郎	建築評論家、中部大学講師
大谷 新太郎	阪南大学助教授
小澤 慶介	キュレーター、NPO AIT理事
小沢 康夫	ブリコグ、パフォーミングアーツプロデューサー
兼平 文憲	樹木医、青森県農林総合研究センター林業試験場
北沢 猛	東京大学大学院助教授、都市デザイナー、横浜市参与
鈴木 芳雄	株式会社マガジンハウス 雑誌BRUTUS副編集長
立木 祥一郎	青森県美術館整備・芸術パーク構想推進課総括学芸員
月舘 敏栄	八戸工業大学教授
寺田 真理子	建築系キュレーター、エディター
豊島 重之	イカノフ・キュレーター (八戸市在住)
花巻 庄司	造形家 (十和田市在住)
原 久子	アートプログラム・ディレクター、ライター
日野口 晃	ふおるむ美術研究会 (十和田市在住)
松永 康	国際芸術センター青森元学芸員

○(仮称) アートセンター設計者選定プロポーザル審査委員会

(2005年度)

＊十和田市現代美術館の設計者の選定

五十嵐 太郎	建築評論家、東北大学助教授
岩城 伸行	県立十和田工業高等学校建築科長
川崎 富康	十和田市文化協会会長
北原 啓司	弘前大学教授 ＊委員長
小池 一子	武蔵野美術大学教授
南條 史生	森美術館副館長
気田 武夫	十和田市助役

○アート作品検討委員会

(2005 年度)

＊設置するアート作品についての検討

小池 一子	武蔵野美術大学教授
立木 祥一郎	青森県文化振興課美術館グループ総括学芸主査
南條 史生	森美術館副館長 ＊委員長
建畠 哲	国立国際美術館館長
花巻 庄司	造形家 (十和田市出身)

(2006 年度、2007 年度)

工藤 健志	青森県立美術館学芸員
小池 一子	武蔵野美術大学名誉教授
建畠 哲	国立国際美術館館長
南條 史生	森美術館館長 ＊委員長
花巻 庄司	造形家 (十和田市出身)

[Arts Towada 立案の経緯および沿革]

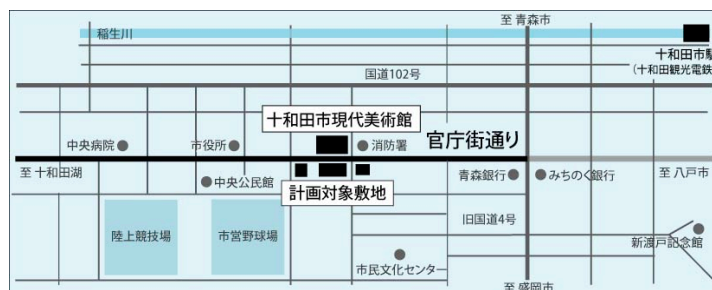
十和田市は青森県東南部に位置し、八甲田山や十和田湖など自然豊かな環境を有する地域と、奥入瀬川から取水した人工河川「稻生川」が潤す田園と都市機能を有する地域から形成されています。とりわけ中心市街地は江戸時代末期、新渡戸 傳（にとべ つとう）らの先人が、広漠な土地を美田潤う人々の里に変えようと、開拓の鋤を入れ、碁盤目状に区画された「近代都市計画のルーツ」の地であり、今なお豊かな自然を保持しています。なかでも、官庁街通りはシンボルロードとして整備が進み、四季折々の景色が楽しめる憩いの場であるとともに、イベント会場としても親しまれています。また十和田湖、奥入瀬溪流への観光ルートとしても利用され、観光客からも好評を得ています。市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観をつくりだすとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として Arts Towada に取り組んでいます。

2001 年	十和田市役所企画調整課で野外芸術文化ゾーン構想の検討開始
2002 年 12 月	4 社でのプロポーザルにより、官庁街通り活用基礎調査業務をナンジョウアンドアソシエイツに委託
2004 年 3 月	野外芸術文化ゾーン基本構想完成
2004 年 8 月	基本計画素案について検討するための「野外芸術文化ゾーン専門家委員会」初開催（委員 8 名）
2004 年 8 月	基本計画素案についてプロジェクトアドバイザー（17 名）からの意見聴取
2005 年 3 月	野外芸術文化ゾーン基本計画策定
2005 年 5 月	プロポーザル方式により、（仮称）アートセンター設計者を有限会社西沢立衛建築設計事務所に決定
2005 年 9 月	設置作品の選定のため「アート作品検討委員会」を初開催（委員 5 名）
2006 年 3 月	（仮称）アートセンター建設用地取得
2006 年 7 月	（仮称）アートセンター建築工事着工
2007 年 2 月	拠点施設（（仮称）アートセンター）名称を「十和田市現代美術館」と決定
2007 年 7 月	十和田市現代美術館アート工事及び外構工事着工
2008 年 3 月	本体工事竣工予定
2008 年 4 月末	十和田市現代美術館開館予定

[Arts Towada 今後の整備計画]

Arts Towadaは、2005年度より5年間をかけて推進され、十和田市現代美術館開館後は、官庁街通り沿いの屋外スペースにシンボルアート等の作品を設置したり、沿道にストリートファニチャーを設置したりする予定です。Arts Towada全体の完成は2010年春を予定しています。総事業費は約27億円を見込んでいます。

2008 年度	
6 月～3 月	アート作品設置及び外構工事（税務署跡地他）
7 月～3 月	アート作品等実施設計（東北電力東側空地他）
12 月	用地取得（東北電力東側空地他）
2009 年度	
6 月～3 月	アート作品設置及び外構工事（東北電力東側空地他）



十和田市現代美術館

[Arts Towada プレイベント アートチャンネルトワダ]

アートチャンネルトワダは、Arts Towada の周知および地域の方々にアートに親しんでもらうため、官庁街通りを中心に開催されているアートイベントです。

2003 年 3 月	体験版ワークショップ かえっこ (藤 浩志)
2003 年 8 月	アートチャンネルトワダ vol.1 (椿 昇/折元 立身/佐藤 尉隆)
2004 年 7 月	アートチャンネルトワダ vol.2 (LOCO)
2004 年 10 月	アートチャンネルトワダ vol.3 (磯崎 道佳/井上 信太 + 前田 真二郎/牛嶋 均)
2005 年 12 月	アートチャンネルトワダ vol.4 (平野 治朗)
2006 年 10 月	アートチャンネルトワダ vol.5 (山本 修路)
2006 年 11 月	(仮称) アートセンター着工記念フォーラム (西沢 立衛/南條 史生/花巻 庄司/小林 央子)
2007 年 8 月	アートチャンネルトワダ vol.6 (須藤 一幸)
2007 年 9 月	アートチャンネルトワダ vol.7 (椿 昇)
2007 年 11 月	アーティスト・トーク (フェデリコ・エレロ)
2007 年 11 月	十和田市現代美術館 開館直前フォーラム (はな/南條 史生/栗林 隆/明山 應義/小林 央子)



[関連ウェブサイト]

下記ウェブサイトにて詳しい内容や今までの活動をご覧いただくことができます。

<http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/>

<http://www.artstowada.com/>

■事業に関するお問い合わせ■

十和田市企画調整課

担当：中野渡

tel: 0176-23-5111 fax: 0176-24-9616 email: towada-kikaku@net.pref.aomori.jp

■プレスに関するお問い合わせ、取材（インタビュー）のお申し込み、媒体掲載用画像のお貸し出し■

ナンジョウアンドアソシエイツ（プロジェクト全体監修）

担当：新居（にい）

tel: 03-3780-0491 fax: 03-3780-0753 email: nii@nanjo.com